

「おもてなし山形県観光条例」に基づく新たな基本計画（中間案）に係る意見交換会における意見及び対応一覧  
 【開催日：令和6年11月18日（月）：最上会場、11月20日（水）：村山会場、11月26日（火）：置賜会場、11月28日（木）：庄内会場】

参考資料2

＜表の見方＞  
 ○計画本体における具体的施策については、計画本体の記載内容に基づき、「施策の柱（アラビア数字）-視点（大文字アルファベット）-具体的施策（丸囲みアラビア数字）」で表記している。  
 ○本文の修正箇所は、**朱書き**にて表記している。

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
最上会場	○民間事業者向けに地域の人材を含む地域資源の活かし方などをアドバイスするような取組みを計画内に盛り込んでもらいたい。	○「2-D-① 将来の本県観光を牽引する観光人材の確保・育成」の本文を修正。	【2-D-①】 ○旅行ニーズの多様化が進む中、観光事業者においても、デジタル分野やマーケティングをはじめとした専門スキルや、経営層やマネージャー層、プレイヤー層等職階別でのスキルの習得が求められます。各分野で求められる <b>人材像やスキルを整理するとともに、伴走型による取組みを含め、観光事業者等との連携を図りながら、「山形観光アカデミー」</b> をはじめとした育成機関や「山形おもてなしドライバー」等による実践的なリスティング・人材育成プログラムを充実します。
最上会場	○今年度、最上地域観光協議会の観光地域づくり塾に参加しており、観光に対する熱意ある方々と意見交換する機会をいただいた。いろいろな方とのタテとヨコの繋がりが重要であると感じる。最上地域を盛り上げるためにも、県には各事業者へ向けた情報発信などに積極的に取り組んでもらい、地域全体で連携できるような環境を作り上げてもらいたい。	○「2-D-① 将来の本県観光を牽引する観光人材の確保・育成」、「3-D-① 観光事業者やDMO、地域観光協会における持続可能な経営体制の確立」の中で対応。	
最上会場	○チャーター便について、機材の問題等の様々なことが原因となり、今年度の就航は難しいと思われるが、相手方の航空会社との調整など、誘致に向け今後どう取り組んでいくのかということは検討の余地があると思う。	○「1-B-⑤ 羽田乗継・他県空港との連携による県内空港の利用促進、国際チャーター便、外航クルーズ船の誘致」の中で対応。	
最上会場	○韓国からの観光客について、東日本大震災が起きた際、本県が福島原発の近くに位置していることなどが主な原因となり、本県での観光を避ける流れが生まれた。現在もその影響があるかは不明確であるものの、日本へ訪れる韓国からの観光客は台湾に次いで多いことから、この状況を打破するにはどうすべきかが課題であると感じる。	○「1-B-② インバウンド重点地域の設定・海外高付加価値旅行者層に精通する旅行会社等とのコネクション形成と情報発信ツールの活用」の中で対応。	
最上会場	○プロフェッショナル人材の育成は重要であるが、人材育成を行うにあたり、まず観光で稼げる仕組みを作らなければならない。利益を生み出すことができるお土産屋などの民間の観光施設が地域をPRする団体へ利益を還元し、さらに訪れる人が増えるという仕組みが必要と感じる。そうすることで人材育成に係る費用を生み出すことができ、プロフェッショナル人材の安定的な育成に繋がると感じる。	○「2-D-① 将来の本県観光を牽引する観光人材の確保・育成」の本文を修正。	【2-D-①】 ○旅行ニーズの多様化が進む中、観光事業者においても、デジタル分野やマーケティングをはじめとした専門スキルや、経営層やマネージャー層、プレイヤー層等職階別でのスキルの習得が求められます。各分野で求められる <b>人材像やスキルを整理するとともに、伴走型による取組みを含め、観光事業者等との連携を図りながら、「山形観光アカデミー」</b> をはじめとした育成機関や「山形おもてなしドライバー」等による実践的なリスティング・人材育成プログラムを充実します。
最上会場	○情報発信ではお金を稼ぐことはできないが、情報発信をマーケティングの一つと捉え投資することが重要であると感じる。	○「2-A-① データ分析に基づいた観光コンテンツの造成」、「2-B-① データ分析に基づいた個別最適な情報発信・プロモーション」の中で対応。	

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
最上会場	○駅構内で観光案内所を運営しているが、窓口を尋ねてくる観光客は大半がスマホを持たない高齢者である。DX化が重要である一方で、こういったアナログでの対応が必要となる高齢者への情報発信をどう行うのかということも考える必要がある。	○「2-B-① データ分析に基づいた個別最適な情報発信・プロモーション」の中で対応。	
最上会場	○銀山までは多くの観光客が訪れているのに対し、最上地域へは誘客できていないという現状を県としてどう考えていくのかという点は今後重要になるものと感じる。 ○最上地域を訪れた観光客に最上地域をなぜ訪れたのかを尋ねると、「銀山温泉や最上川舟下り以外に何かないのか」と思い訪れた」という者が多い。このため、訪れる者が何をチョイスして観光に来るのかという部分についてはまだまだ研究の余地があると感じる。	○「2-A-① データ分析に基づいた個別最適な情報発信・プロモーション」の中で対応。	
最上会場	○新庄駅から先は代行バスが運行しているのだが、なぜ代行バスが運行しているのかという情報がなく、訪れた観光客の混乱を招いたことがあった。このため、訪れる者のためにも、地域の交通や道路の情報は積極的に発信してもらいたい。	○「2-B-② AI等デジタル技術の活用によるリアルタイムでの観光案内の充実」の中で対応。	
最上会場	○宿泊所について、増えてはいるものの、まだまだ少ないというのが現状であると感じる。当社では空き家を民泊として活用するという取組みを検討中であるが、そのような部分に対する支援も今後考えていただきたい。	○「1-C-① 高付加価値旅行者等の多様なニーズを満たす宿泊施設の改修・誘致」の中で対応。	
最上会場	○以前に発達障がいを持つ者を本県に招待するツアーを催行したことがあるが、その際に難しいと感じたことは、障がい者と聞くと健常者は「自分には関係ない」と思う者が多く、割合の少ない障がい者のためにお金を掛けて取組みを実施する必要があるのかという者がいるという点である。 ○しかしながら、障がい者への対応というのはほとんどが高齢者への対応と共通している。このため、誰もが高齢者になるという視点で言えば今後の観光のためには必要不可欠な取組みであると感じる。 ○一方で、盲導犬用のトイレや宗教上必要となる設備の整備など、広く共通しづらいものへの対応については、ぜひ県からも支援してもらいたい。	○「3-C-① アクセシブルツーリズムの推進(年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず旅行を楽しめる環境づくり)」の中で対応。	
村山会場	○重点プロジェクトや施策展開の方向性に関して、ある程度具体的に示されているものの、取組みの数が多岐にわたることから、県が取り組むこと、県民、民間事業者に取り組むを求めることなど、それぞれの役割を明確にした方が良いと思う。	○「具体的施策別の連携主体の整理」の追記により対応。	※答申案本編中、「具体的施策別の連携主体の整理」参照。

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
村山会場	○AIについては、様々な企業が取り組んでいるが、画一的なものが普及しているわけではなく、世界的な企業も開発に取り組んでいるという状況でもあることから、計画内にこの取組みを明確に示して良いものなのかという点は疑問。	○個別事業において検討。	
村山会場	○年度ごとの取組みの優先順位など、具体的なロードマップのようなものが示されると、民間事業者が事業を進めるうえでも一つの指針となることから、可能な範囲で作成を検討してもらいたい。	○「具体的施策別の連携主体の整理」の追記、「重点プロジェクト」により対応。	※答申案本編中、「具体的施策別の連携主体の整理」及び「重点プロジェクト」参照。
村山会場	○計画案を見ると、総花的な印象を受けたが、中には当方でも取り組めることがあると思われる。このため、誰が何に取り組むのか、当方では何に取り組めば良いのかという点を具体的に示した計画としてもらいたい。	○「具体的施策別の連携主体の整理」の追記により対応。	※答申案本編中、「具体的施策別の連携主体の整理」参照。
置賜会場	○本県は100年以上続く店の数が京都府に続いて全国2位であり、他県よりも継続的に営業できている店が多くある。一方で、県内各地では商品開発など、新たな取組みを実施する店舗も多く見られるようになり、本県観光地は新旧が融合して成り立っているものと感じている。その中で、本県の歴史を守り続けてきたのは本県に住む県民であることから、もっと「人」にフォーカスした取組みを推進してもらいたい。計画内の記載にももっと本県の良さである人の温かみを感じられるような柔らかい表現を盛り込んでもらいたい。	○「2-B-⑤「地域に暮らす人」が見える情報発信の充実」の中で対応。	
置賜会場	○取組みを進めていくにあたり、県庁内で観光分野だけでなく農林分野や商工分野などの他分野との情報共有やお互いの取組み内容の共有をしっかりと図ってほしい。	○「1-A-④ 異業種・学術機関等と連携した観光コンテンツの開発」、「1-B-⑥ 農林水産・商工等の異分野や関係機関・地域と連携した海外向けプロモーション・魅力発信の強化」の中で対応。	
置賜会場	○今後は、飯豊町の水没林でカヌーのアクティビティを提供しているYAMAGATA EXPERIENCEの堀江氏など、「本物のものを本気で伝えてくれる人」に出会える旅のような旅行商品の造成に注力すべきと考える。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」、「2-B-⑤「地域に暮らす人」が見える情報発信の充実」の中で対応。	
置賜会場	○国内旅行者の数が増加しない中、インバウンドにターゲットを絞るといい点が良いと思うが、その場合、特に置賜において通訳・ガイドの問題は最も優先的に解決すべき課題であると考えている。このため、置賜エリアにおける通訳・ガイドの育成は今後重要であると考えており、自団体では既に2市3町で連携して外国語対応ができるガイドをリスト化し検証を含め集団化を図っている。このような取組みは全県的にも必要であると感じる。	○「1-D-③ 高付加価値な観光地域づくりの根幹となるプロフェッショナルガイドの発掘・育成」の中で対応。	【1-D-③】 ○国内外の高付加価値旅行者の本県への受入・滞在を継続的・安定的なものにするため、県内の観光資源に関する幅広く深い知識を持ち、旅行の各行程において旅行者のニーズに応じたきめ細やかな説明・案内サービスを提供できるプロフェッショナルガイドの発掘・育成や、各地で活動するボランティアガイドを含めた、ガイド間における交流・情報共有等を推進します。

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
置賜会場	○観光分野に直接携わることが少ない県民などに観光の重要性を認識してもらうためには、観光業が本県にもたらす経済効果を具体的なデータ等を用いて示していく必要があると感じる。	○「本県観光産業を巡る現状」の中で整理。	
置賜会場	○本県に来てもらうだけでなく、本県に宿泊までしてもらうことが重要であり、その中で食事やお土産などにも多くのお金を使ってもらうことが本県経済にいい影響を与えると感じる。このため連泊を含めた本県に長く滞在してもらえよう取組みが重要と考える。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の中で対応。	
置賜会場	○本県の観光にマイナスの影響を及ぼすこととして、銀山温泉の駐車場満車に伴う渋滞や蔵王ロープウェイの待ち時間が長時間に及ぶことによる渋滞などが挙げられる。この問題は旅行行程やお客様の満足度にもマイナスの影響を及ぼしてしまうこととなるため、それらを解決するためのシステム構築にお金を掛けてもらいたい。	○「3-C-⑤ オーバーツーリズムへの対応」の中で対応。	
置賜会場	○人口減少や経済縮小が続く中ではあるが、本県の観光はまだまだ拡大する可能性が大いにあると思っている。その中で、観光業に携わる人だけでなく、県民全体の観光に対する重要度の理解が必要であると考え	○「3-D-④ 歴史・文化、自然など郷土の魅力を学び発信する機会の充実」、「3-D-⑥ 共生・共創の精神によるホスピタリティの向上」の中で対応。	
置賜会場	○本県の強みは、訪れた人におもてなしの心を持って接することができる人の温かみであると感じる。この強みをより発揮するためにはガイドの存在が重要であることから、計画内でプロフェッショナルガイドの発掘・育成に関して触れている点には共感した。 ○一方で、置賜エリアはボランティアガイドが根付いている地域でもある。この存在は非常にありがたいと感じているが、ボランティアガイドが充実している＝有料のガイドが育ちづらいというジレンマがあることから、この問題を解決していくことも重要であると考え	○「1-D-③ 高付加価値な観光地域づくりの根幹となるプロフェッショナルガイドの発掘・育成」の本文を修正。	【1-D-③】 ○国内外の高付加価値旅行者の本県への受入・滞在を継続的・安定的なものにするため、県内の観光資源に関する幅広く深い知識を持ち、旅行の各行程において旅行者のニーズに応じたきめ細やかな説明・案内サービスを提供できるプロフェッショナルガイドの発掘・育成や、各地で活動するボランティアガイドを含めた、ガイド間における交流・情報共有等を推進します。
置賜会場	○計画内に「地域の連携」に関する記載が不足しているように感じる。本県観光のメインとなる銀山や蔵王からその他の地域を周遊してもらえよう取組みを築き上げていくことや、本県のみならず東北6県を周遊してもらい他県からいかにして本県へ観光客を引き込むかという点が今後重要になると考える。	○「1-A-⑤ 県域(国境)を越えた地域間連携・官民連携での広域周遊ルートの造成」、「1-B-⑥ 農林水産・商工等の異分野や関係機関・地域と連携した海外向けプロモーション・魅力発信の強化」の中で対応。	
置賜会場	○山形県としてのブランドについてもっと考えていく必要があると感じる。山形と言えば何なのか、山形のウリ・強みは何なのかということをもっと計画に明示してもいいのではないか。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の中で対応。	

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
置賜会場	○アウトバウンドについて、計画内では台湾との相互交流という点で触れているものの、具体的にどうやってアウトバウンドの数を増やしていくかという記載が少ないのではないかと感じる。アウトバウンドはハードルの高いテーマでもあることから、アウトバウンドの促進に係る具体的な取組みについても計画内で示してもらいたい。	○「1-B-⑦ アウトバウンドや教育旅行等を通じた相互交流の拡大」の中で対応。	
置賜会場	○稼ぐためにはリピーターを増やすことが重要である。このため、CRMについて県としてもしっかりと取組みを進めてもらいたい。	○「2-D-③「勘」や「経験」から脱却した、観光産業におけるデータドリブン経営の展開」の中で対応。	
置賜会場	○教育旅行について、本県を訪れる観光客は9割以上が国内観光客であることから、海外へ目を向けることともに、国内からの教育旅行誘致についても積極的に取り組んでもらいたい。計画内には、台湾との教育旅行交流について記載があるが、本県における教育旅行の受入態勢、プログラム化は全国と比較しても遅れている。このため、こういった面に対応する取組みについても検討いただきたい。	○「1-B-⑦ アウトバウンドや教育旅行等を通じた相互交流の拡大」の中で対応。	
置賜会場	○計画内に山形の良さが盛り込まれていないように感じる。「ラーメン県・そば王国」などの具体的なフレーズやキーワードがあると、旅行者も分かりやすく旅行できるのではないと思う。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の本文を修正。	【1-A-①】 ○出羽三山に代表される精神文化や、四季折々に表情を変える豊かな自然、県内全市町村に湧き出る温泉、 <b>米やフルーツに代表される県産農産物</b> 、美酒、芋煮や <b>ラーメン・そば</b> 等をはじめとした食など、本県が世界に誇る多様な観光資源について、「それらの資源が持つ歴史・ストーリーを深く学ぶ」、「地域の人々と繋がり、触れ合いながら実体験し、その空気感・世界観に直に触れる」など、「世界中で山形でしか味わえない本物の体験」にアップデートした、「 <b>第2のふるさと</b> 」として何度も訪れてもらえる観光コンテンツとして県内各地で造成する取組みを促進します。
置賜会場	○インバウンドを受け入れるためには、やはり受入態勢の整備が重要であることから、当方でも働きかけを行っているが、地元の事業者にはまだそこに対する意識が低く、取組みがまだ不十分であると感じる。このため、資金面での支援含め受入態勢の整備に向けた働きかけは重要であると感じる。	○「1-D-① 高付加価値旅行者に対応したノウハウの習得」、「1-D-② 観光事業者の高付加価値化に向けた取組みの支援」、「2-D-① 将来の本県観光を牽引する観光人材の確保・育成」、「2-D-② DX推進による広域連携と観光デジタル人材の育成」、「2-D-⑥ 即戦力となる外国人材の活用と受入環境の整備」、「3-D-① 観光事業者やDMO、地域観光協会における持続可能な経営体制の確立」、「3-D-② 観光産業における働き方改革の推進（「働く場」としての観光産業の魅力向上）」の中で対応。	
置賜会場	○今後多くの旅行者を受け入れるにあたり、受入態勢の整備が重要であるとともに、商品を売る人（旅行代理店等）を置賜エリアでしっかり確保することなど「売ること」に関する機能強化も重要であると感じる。	○「2-A-② DMOを中心とした地域資源活用コンテンツの造成」の中で対応。	

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
置賜会場	○置賜エリアに限った話ではないが、やはり料理人を含む従業員不足の問題は深刻であると感じる。この問題は、旅館の稼働日に直接的な影響を与えることに繋がり、ひいては入込の減少にも繋がってしまう。このため、泊食分離も含めた人を呼ぶだけでなく、息の長い経営を可能とするための対策についても検討していかなければならないと考える。	○「2-D-⑤ デジタルを活用し人手不足に対応した業務効率化・生産性向上」、「2-D-⑥ 即戦力となる外国人材の活用と受入環境の整備」の中で対応。	
置賜会場	○計画案について、誰のための計画を作ろうとしているのかを念頭に置いて策定してもらいたい。観光はボランティアではないことから、お金を稼ぐことができる観光を実現するための計画とし、それを計画内に明記してもらいたい。	○「施策の柱1」における説明文と、「具体的施策別の連携主体の整理」の追記により対応。	※答申案本編中、「具体的施策別の連携主体の整理」参照。
置賜会場	○計画内に記載のあるホスピタリティの向上について、地域住民の理解がキーワードになると感じる。白川湖の水没林の例では、訪れる人で道が渋滞し、地元の人々の交通の邪魔になることがあった。このため、まずは地域住民に観光への理解を深めてもらうことや地域住民に参加してもらうことが重要である。	○「3-A-② 障がい者や高齢者も楽しめる観光コンテンツの開発」、「3-C-⑤ オーバーツーリズムへの対応」の中で対応。	
庄内会場	○これまでは、どこにどれだけ人が来ているのかという結果だけに着目していたが、今後はデジタルの力も有効活用し、誰がいくらお金を落とすとしていてどんなものに興味があるのかなどの旅行者それぞれの属性を細かく分析し、PRするターゲットや内容を精査していく必要があると感じている。	○「2-A-① データ分析に基づいた観光コンテンツの造成」、「2-B-① データ分析に基づいた個別最適な情報発信・プロモーション」の中で対応。	
庄内会場	○計画案に対する要望として、庄内空港へのチャーター便の誘致や外航クルーズ船の誘致に関する取組みについて、もう少し明確に示してもらえると、庄内地域としても非常に心強いと感じる。	○個別事業において検討。	
庄内会場	○DX化の推進にあたっては、県での支援も強力に実施してもらい、自社のような高齢化が進む企業でもデジタルの導入が容易になる仕組みを作ってもらいたい。	○「2-D-③ 「勤」や「経験」から脱却した、観光産業におけるデータドリブン経営の展開」、「2-D-⑤ デジタルを活用し人手不足に対応した業務効率化・生産性向上」の中で対応。	
庄内会場	○DX化の視点において、旅行のPRから申込みや移動、消費までの一連の流れが全てデジタルで完結できるようになれば、日本人旅行者だけでなく外国人旅行者も旅行しやすくなるのではないかと考える。	○「2-B-③ 認知から予約・来訪までデジタルでシームレスに繋がる仕組みの構築」の中で対応	

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
庄内会場	○庄内空港は羽田空港とも5便ほど繋がっているが、本県への誘客を図るためには東北の窓口である仙台空港だけでなく、日本の玄関口である羽田空港からの誘客にも取り組んでいくべきであると考え。また、山形空港や庄内空港もハブ空港としての役割を果たせるような取組みを推進してもらいたい。	○「1-B-③ 主要空港を基点としたプロモーション・都市圏向けプロモーションの強化」、「1-B-⑤ 羽田乗継・他県空港との連携による県内空港の利用促進、国際チャーター便、外航クルーズ船の誘致」、「1-C-⑤ 東北のハブ空港である仙台空港からのアクセス向上」の中で対応。	
庄内会場	○各種ツーリズムの記載について、「海」に関連するツーリズムの記載があっても良いのではないかと感じた。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の本文を修正。	【1-A-①】 ＜山形県が世界に誇る地域資源を活用したツーリズム(主なもの)＞ ・精神文化ツーリズム:出羽三山や山寺、本山慈恩寺、即身仏、草木塔、やまがた出羽百観音に代表される歴史や精神文化 ・アドベンチャーツーリズム:山岳や森林、海、湖、河川など、四季折々に表情を変える豊かな自然を活用したアクティビティ …
庄内会場	○庄内地域では、鳥海山をはじめとする山々の登山を楽しむ山岳観光がメインのコンテンツとなっているが、県内には他にも蔵王や飯豊、朝日など国内外に誇れる連峰があることから、こういったコンテンツを活かしながら観光振興に取り組んでいくことができれば良いと考える。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の本文を修正。	【1-A-①】 ＜山形県が世界に誇る地域資源を活用したツーリズム(主なもの)＞ ・精神文化ツーリズム:出羽三山や山寺、本山慈恩寺、即身仏、草木塔、やまがた出羽百観音に代表される歴史や精神文化 ・アドベンチャーツーリズム:山岳や森林、海、湖、河川など、四季折々に表情を変える豊かな自然を活用したアクティビティ …
庄内会場	○最近のインバウンド客は、東京や京都などのメインの観光地はひと通り行きつくし、その次の観光地を探している旅行者が多いように感じているが、実際に行先を尋ねると金沢や福岡などが多い。外国人が求めているのは海鮮系の食や自然を感じるアクティビティなどであるが、これは庄内地域でも十分提供可能であることから、最も重要なのは誘客の部分であると感じる。	○「1-B-① ターゲットの属性や嗜好に基づいた国内外への情報発信の強化」、「1-B-② インバウンド重点地域の設定・海外高付加価値旅行者層に精通する旅行会社等とのコネクション形成と情報発信ツールの活用」の中で対応。	
庄内会場	○インバウンド客が山形や庄内地域を訪れる際に大きな弊害となるのがやはりアクセスの難しさであると考え。根本的にアクセスに関する認知が拡大していないという問題もあるが、空港や駅までたどり着いてもそこから各観光地へ公共交通機関での移動が不可能であったり行き方が複雑であるなど、本県での観光はインバウンド客にとってアクセスの面で非常にハードルが高いと感じる。秋田-新潟間は今後高速が開通するが、今後は県内だけでなく隣県とも連携を深め、アクセスの充実を図ることは急務であると考え。	○「1-C-③ 道路交通網をはじめとする社会資本整備の促進」、「1-C-④ 高付加価値旅行者や交通弱者を視野に入れた二次交通の充実」、「1-C-⑤ 東北のハブ空港である仙台空港からのアクセス向上」、「1-C-⑥ 本県インバウンドの新たな玄関口となる新潟空港との連携強化」の中で対応。	
庄内会場	○山形には富裕層が泊まるホテルがないという声を海外の旅行会社からよく聞く。本県は地域内の消費がメインとなっており、旅館などの価格設定も、国内や地域の旅行者向けの価格となっていることから、富裕層の受け入れに向けた地域のマインド醸成や経済的な支援などについても検討する必要があると考える。	○「1-C-① 高付加価値旅行者等の多様なニーズを満たす宿泊施設の改修・誘致」、「1-D-① 高付加価値旅行者に対応したノウハウの習得」、「1-D-② 観光事業者の高付加価値化に向けた取組みの支援」の中で対応。	

会場名	意見	意見への対応	
		対応の方向性	修正後
庄内会場	○インバウンドの誘客に向けては隣県との連携をもっと深めていくことが重要であると感じる。実際に、台湾からの団体旅行客が新潟から入国し本県を経由して仙台から出国したというケースも見られたことから、広域的な連携をより強化していくことについても計画内に明示してもらいたい。	○「1-A-⑤ 県域(国境)を越えた地域間連携・官民連携での広域周遊ルート」の造成、「1-B-⑥ 農林水産・商工等の異分野や関係機関・地域と連携した海外向けプロモーション・魅力発信の強化」の中で対応。	
庄内会場	○重点地域についてはもう少し強弱があった方が良いのではないかと感じる。ある程度ターゲットを絞ってそこに連動させた形で施策を打ち出していく方が県としての姿勢が伝わるとともに、民間事業者としても自社の取組みにおける指針の一つとなりやすいのではないかと。	○「1-B-② インバウンド重点地域の設定・海外高付加価値旅行者層に精通する旅行会社等とのコネクション形成と情報発信ツールの活用」において、「重点地域に係る市場別の区分・考え方の整理」を追記。	※答申案本編中、「1-B-② インバウンド重点地域の設定・海外高付加価値旅行者層に精通する旅行会社等とのコネクション形成と情報発信ツールの活用」参照。
庄内会場	○高付加価値化や富裕層の受け入れに向けた整備は今後の課題でもあると認識しているが、富裕層向けの宿泊施設やコンテンツなどのハード面の整備は時間を要するものでもあることから、今ある本県の魅力を上手く組み合わせて付加価値を生んで単価を上げるなど、すぐにでも対応が可能なソフト面での取組みも今後重要になってくると考える。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」、「1-A-② 魅力ある観光土産品の開発促進と販売チャネルの充実」、「1-A-④ 異業種・学術機関等と連携した観光コンテンツの開発」、「1-A-⑤ 県域(国境)を越えた地域間連携・官民連携での広域周遊ルート」の中で対応。	
庄内会場	○県内4地域で観光資源の格差があると感じている。このため、計画の策定にあたっては、県で一本化するのではなく、地域ごとの課題に即し各地域の具体的な取組みを示していく形にした方が良く考える。	○「1-A-⑤ 県域(国境)を越えた地域間連携・官民連携での広域周遊ルート」の中で対応。	
庄内会場	○計画内で食に係る取組みの記載がほとんどないように感じる。このため、本県の魅力の一つである食についてももう少し盛り込んだ計画としてもらいたい。	○「1-A-① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成」の本文を修正。	【1-A-①】 ○出羽三山に代表される精神文化や、四季折々に表情を変える豊かな自然、県内全市町村に湧き出る温泉、 <b>米やフルーツに代表される県産農産物</b> 、美酒、芋煮や <b>ラーメン・そば</b> 等をはじめとした食など、本県が世界に誇る多様な観光資源について、「それらの資源が持つ歴史・ストーリーを深く学ぶ」、「地域の人々と繋がり、触れ合いながら実体験し、その空気感・世界観に直に触れる」など、「世界中で山形でしか味わえない本物の体験」にアップデートした、「 <b>第2のふるさと</b> 」として何度も訪れてもらえる観光コンテンツとして県内各地で造成する取組みを促進します。